

塩分摂取量簡易測定器「減塩モニタ」

河野エムイー研究所(川崎市)

河野 英一 社長 58

食塩水の入った測定器を手にする河野さん



尿で簡単測定 評判上々

一日あたりの塩分摂取量が、ほんの20秒足らずで簡単に測定できる。朝起きてから尿を測定器にかける

と、センサーが量と塩分濃度を感じする仕組み。前日に取った塩分の推計が、グラム単位でモニターに表示される。

推計値は、横浜市立大学大学院の栃久保修教授(予防医学)と共同調査したデータを基にした。県内の男女2500人をサンプルに、計算式をつくったという。開発のきっかけは、高齢化社会で、高血圧を原因とする生活習慣病や腎臓病を

も、食品ごとの標準的な塩分含有量の合計を基に行われるが、塩加減による誤差も指摘されていた。この課題を解消しようと、開発には3年かけた。4年前まで、大手電機会社の社員として、精密機械などの研究開発にかかわっていた。だが、

先端を行く

思うリスクが高まっていくこと。因果関係の深い塩分のコントロールが必要になる人も増えているのに、毎日手軽に塩分量を量れる手段はなかった。患者に欠かせない栄養指導

大きな組織の中で世の中に役立っているという実感が持てなくなり、起業を決意した。4人のスタッフと、「健康な人が病気になるための医療機器を作ろう」と研究開発を進めている。予防に軸足を置いた検査機器は、まだまだ少数派で、「だからこそ最高のビジネスチャンス」と意気込む。

「減塩モニタ」は昨年10月から、県内の大学病院や診療所に価格2万5000円(税別)で試験販売し始めた。評判は上々で、来年2月には本格的な販売に移行する予定だ。将来的には、大手医療機器メーカーと提携し、大量生産を目指すという。「血圧計を測ると同時に、塩分を測定する光景が近く来れば」と夢は膨らんでいる。(今川友美)